

入退院を繰り返す可能性のある要介護者等における再発防止のための セルフマネジメントの在り方に関する調査研究事業

株式会社日本能率協会総合研究所

(目的)

本事業の先行研究事業である平成 27 年度「要支援・要介護者に対する入退院時等における継続的な支援を実現するための介護支援専門員(以下、ケアマネジャー)支援ツール開発及び効果検証のための調査研究事業」(以下、平成 27 年度モデル事業)において、脳卒中発症経験者をターゲットに、再発予防のためのセルフマネジメントのモデル事業に取り組んだ。その結果、支援者がいることでセルフマネジメント、所謂リスク管理の動機づけとなること、また脳血管疾患という既往症を踏まえ介護職が支援を検討することが求められるため、医療職と介護職の連携が図られることが確認できた。その一方で、使用したツール(情報連携シートやセルフマネジメントシート)に改善の余地があること、また脳血管疾患は介護が必要となった1原因であり、脳血管疾患以外の介護が必要となった原因とされる疾患について、セルフマネジメントの在り方やその有効性についてまでは確認できておらず、課題として残された。

本事業においては、平成 27 年度事業の課題を踏まえてツールの改善を図りつつ、新たに認知症、心疾患、廃用性症候群等地域が抱える個別課題に対象を広げ、実施することとした。

(事業概要)

1. 専門家・識者による「委員会」「作業部会」の設置、開催

本調査研究の実施に際し、モデル事業の参加地域(参加検討含む)による委員会を設置した。また、モデル事業を円滑に進めるため、各地域のケアマネジャー等による作業部会を設置し、モデル事業で使用する様式等について事前に検討を行った。なお、各地域のケアマネジャー等による作業部会とは別に、モデル事業を行うにあたり、使用するツールを検討するため様式検討作業部会を設置した。

2. 介護支援専門員支援ツールの改善と新たな開発

モデル事業を実施するにあたり、平成 27 年度モデル事業のセルフマネジメントの記録分析を行い、改善点について検討を行った。それを踏まえ、様式改訂班で本年度使用する様式(案)の作成を行っている。一方、認知症様式作成班では、今後、認知症が増加することを踏まえ、セルフマネジメントを支援する支援者による軽度認知障害(MCI)をスクリーニングのための様式について検討を行い、入院医療機関で使用する MCI スクリーニングシート及びセルフマネジメントで使用する MCI モニタリングシートを作成した。

3. モデル事業の実施

全国の 12 の地域で入退院を繰り返す疾患を持つ高齢者に対するセルフマネジメント支援を行うモデル事業に着手した。

モデル事業に参加した地域は以下の通り。

千葉県松戸市、東京都武蔵野市、東京都国立市、新潟県上越市、福井県越前市、
長野県駒ヶ根市、岐阜県大垣市、岐阜県高山市、兵庫県尼崎市、兵庫県多可町、
岡山県岡山市、広島県庄原市

4. 取組の評価

モデル事業については、1月下旬～2月上旬を目途に終了し、地域ごとに関係者会議を開催して、モデル事業についての成果と課題について検討を行って頂いた。また、第2回委員会で、各地域の取組について報告していただくとともに、本モデル事業について総括を行った。